

spur 



岩岳大会、学連大会と大きな大会を終えて、執行部及び会長の座を次の代へと譲り、4年目という立場になり、とてもホッとしているし気楽である。そんな軽い気持ちでいいことを書くなんてまず不可能だと思うが、自分がこの1年間で何を感じ、何を考えてきたのかを素直に書いてみようと思う。今の執行部もしくは次の執行部、ないとは思いますが何年後かの執行部の手助けになればこれ幸いである。

まず、自分達が執行部になった時、やるべきことがたくさんありすぎた。最初に最終目標である岩岳大会のエレガントスキー部の入賞。（昨年度の岩岳で入賞を逃したため急務）そのための人材の確保。このように言うと聞こえはいいが1年生の勧誘。執行部自身のスキーの技術向上。（昨年度の岩岳で決勝まで残ったのは執行部の中で2名）2年生のスキー技術向上。（執行部が上のような状態でどうしろと？）考えるだけでも頭が痛くなるような難題ばかりであった。さらに来年度の計画を立てることや、自分は会長の任を受けていたのでもうまくできるかとか、どんな会長でいこうかとか、自分としてはどういう部活にしたいのかとか、24時間エレガントスキー部のことだけを考えていた。

しかし、こんな難題山積み状態でも正直大変だったのかというと実際そうでもなかった。なぜなら自分以外の4人の執行部メンバーがあまりに有能だったからである。堤という大きな歯車を中心に木幡、水谷、木下という完璧な歯車が噛み合い、仕事をドンドン片付けていってくれた。この4人のおかげで自分は会長として部全体を見渡すことができたし、会長としての任をこなせたのだと思う。他の人から見たらもしかしたらバラバラのチームワークのない団体に思われるかもしれないけれど、5人全員が同じ目標をもっていたからなんの心配も不安もなかった。本当にこの4人には感謝してもしきれない。

さて、ほかの有能な執行部が仕事をこなしている間、ぼーっとしてたら他の4人にタコ殴りにされてしまう。自分には会長としてどうやって部をまとめていくか考え、実行する義務がある。とはいえ今まで部長だの会長だの人の上に立つ仕事などしたことがなかったのでどうやって部をまとめるのか見当もつかない。見当がつかないのでただ会長としての威厳だけは損なわないように自分に言い聞かせた。威厳というのはただ恐いとかじゃなく、当たり前のことを当たり前のようにすれば出てくるものだと思っていたので、時間を守るとか、あいさつをちゃんとするとか日常のことに対して後輩達に厳しくしたり、後輩達に言うからには自分にも厳しくした。もちろんスキーに関して会長が下手だったら威厳もクソもないのでひたすら練習をしてうまくなろうとした。（ちなみに自分は昨年の岩岳大会を予選落ちしていたのでなおさらである）あとは部員達がスキーに対するモチベーションを上げられるように、毎回の練習の始まりと終わりのあいさつを考えていた。ざっと挙げるとこんなものである。いかに1年間でこなしてきた仕事が少ないかがわかるだろう。

これはあくまで自分の場合の会長の姿である。おそらく100人いたら100通りの会長の姿があるだろう。ただいつの時代でも人の上に立つ存在である以上、部員から信頼され、尊敬される存在であるべきだというのは共通していると思う。自分がそうなれたかは自分の姿が見られない以上わからないが、43代、44代、45代とこれから続いていく会長達にがんばってほしいと思う。

これまで長々と書いてきたが、結局のところ自分達の執行部が成功したのかどうかはわからない。だが、最終目標である岩岳大会を9位入賞で締めくくれたことは素直にうれしい。自分としても満足とまではいかないが、個人の成績も岩岳100位とまずまずであった。ただ、岩岳でいい成績を残すという目標を立ち上げ、部活の内容もそれに応じて厳しくなっていったことから、多くの1年生が去っていっ

たことも事実である。しょうがなかったといえればそれまでなのだが、何かまだできることがあったのではないかと反省が残ることも確かである。とにもかくにも自分達の意思は43代執行部に伝えたつもりだ。強いエレガントスキー部をつくり、岩岳優勝を狙う現執行部に4年目となった自分ができることは、前執行部としてアドバイスや1年生、2年生の話を聞いて現執行部が円滑に部を運営できるように手助けするぐらいだ。もちろんスキーについても全面的にバックアップしていきたいと思う。できることは微々たるものかもしれないが、それが42代会長としての新たな責任だと思うし、自分達がお世話になった先輩方への恩返しになると思う。先輩達から受け継ぎ、後輩達にたくしたエレガントスキー部をこれからも見守っていきたい。

木下 優一；平成21年度の会計業務について

今期、会計業務は初めて会計監査を取り入れるといった改革を行いました。それはスキー部としての性質上、大金を扱うことになるのでより正確な決算が必要だと考えたからです。それに加えて決算を以前の1回から半期ごとの2回に増やすことによってより正確性を求めました。そして計画通り、前期は会計と監査、後期は新会計も加えて決算報告を行いました。今後もより正確でオープンな会計がなされることを期待しています。

【渉外部】

渉外活動とは、エレガントスキー部の四十年を超える歴史をつなぐ仕事です。年ごとの活動を記録し、OB,OGの方々への連絡をまわす等々、これらはエレガントスキー部を運営していくなかでも重要な役割であると思います。

では、この重要な役割を僕が全うできていたかといえば、声を大にしてよくできたとは言えず、むしろ、できていないという方が正しいのかもしれませんが。これに関しては僕個人の力不足で皆さんにご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

ただ、これらの仕事は個人の労力ではどうにもならないことがほとんどです。名簿の作成に始まり、渉外連絡に至るまでどれも部員全員の協力があってこそその仕事であって、部長ができるのは催促と編集程度のことなのです。発行が遅れるのは渉外部長の指導力がないせいと言ってしまえばそれまでですが、やはり、皆さんが部の構成員だと自覚してよりスムーズな提出、連絡をしてくれるとこちらとしても幸いといったところであります。

代はかわり仕事も受け継がれていきますが、この渉外という仕事はいつまでも途切れずに続けていくことが大切です。みなさん、渉外部長に協力してあげてください。

【技術部】

毎年、技術部って何よ？というノリで日々を過ごしてたけど今年もそんな感じだった。もっとアグレッシブにやっていたらよかったと思う。たぶん、技術部長には心からスキーを愛し、スキーを愛する仲間たちを愛し、みんなのためにスキー技術を広めてあげようという、そんな友愛の精神に満ちたハトのような人が適任なんだと思う。僕はもっとヨコシマな人間なので適任ではなかったんだろう。これからは人選を慎重に。

【個人反省】

今年は苦難のシーズンだった。それはもう目標という目標が達成できず、自己嫌悪にまみれた冬だった。ただ、苦難の時を過ごしたことで見えたものもある。次シーズンは必ずや浮上の年にしたい。また、初めて師匠として直接的に深く後輩を教えることとなり、精一杯のことはしたつもりだが、結果としてけが人が出たり、満足した結果を出してやれなかったりで本当にもうし分けなかった。すべて僕の不徳の致すところである。

水谷 一貴

去年度は、執行部としての活動と学連の会計としての活動、両方とも頑張った気がしています。弟子もそれなりに育ったし、今年度は大会ガンバロ！！

松井 肇一郎（第43代会長）

11月15日、ガリガリの例年通りのONZEで2年目のシーズンイン。この日、凍てついていたスキーに対する情熱が一気に沸点へと達した。リフトの上でなぜか笑みを一人浮かべていた。「なんて素晴らしいんや、北海道は!？」

滑走日数80日。「今年は自分の実力が伸びた!!」そう胸を張れる年だった。1年生の時に岩岳の団体戦に出ること出来ず、ビデオ撮りだけがうまくなっていくという悔しさをバネに去年よりオフトレからシーズンを意識して頑張った。

シーズン中の毎週日曜日の公式練習会。本当に師匠にはお世話になった。これをベースに反復練習し、いろいろ自分で考えて滑るようになった。1年生の時はよくわからなかったことも理解できるようになったし、それだけでも喜びを感じ、毎日が充実していた。その結果、初めて団体戦にも出れたし、岩岳の決戦まで出場することも出来た。

来年、部員も増えてそろそろ岩岳で上位を目指せる部活になると思う。この部にはお互いを支え合う仲間がいる。そして、意見を言い合える先輩方、後輩達がいる。そんな部を支える部長という役職を任されることになった。来シーズンは、自分のことだけでなく部と一緒に大きく成長したいし、部の楽しさを新入生に伝えていきたい。さらに、師匠も初めてやるので今シーズンやってきたことに加え、弟子に理解してもらえるように丁寧に指導していきたい。

松平 将典

Revenge and Challenge!!

小出 智也

まず初めに、エレに入った時の目標であった1級を無事にとることができた。岩岳大会では個人戦に出場したが決選まで残れず、悔しい思いをした。しかし団体ではAチームを上回る素晴らしい演技をし、部の総合成績に貢献することが出来たと感じている。

技術面に関しては、小回りが外に回せるようになり、また春スキーにおいてスタンスの狭さをだいぶ改善することが出来たと思う。

今年の目標は岩岳100位以内である。平山には負けない！！

志茂 直樹

2年目は、個人としては良い結果を残すことができませんでしたが、岩岳大会の団体戦を経験できたことなど、非常に有意義なシーズンを過ごすことができました。

3年目では、今まで先輩方におんぶにだっこであった分、執行部の一人として、部のため後輩のために努力していきたいと思います。そして結果がついてきて、シーズンの最後にみんなの笑顔が見られれば幸いです。

都築 佑太

昨シーズンのスキーは最低最悪な結果となってしまった。何より団体に出られなかったのが痛恨の極みだ。...で、なんでこんな結果になってしまったのかというと多分、単純に自分が下手くそだったからであると思う。下手くそなら下手くそなりに練習し、人に聞くなりもっとできたはずだ。

もうあんなカスみたいな思いはしたくねえ。今年は死ぬほどスキー行って必ず満足する成績を出す!!さらに願わくば...自分の弟子たちも劇的に上手くなってもらって、笑いながら岩岳のぼったくりクレープをおごってやりたい。

やるなら死ぬ気でやれよ、どうせ死なないんだから。

中田 龍太

今年の目標は、ケガをしないことを大前提に、自分は岩岳 150 位 & 団体に 1 桁に入り、そして、弟子 2 人を新人戦のポイントゲッターに育てることです。

自分は去年ひざの靭帯を切ってシーズンを棒に振りました。なので、今年は自分もみんなもケガをしないことを一番に考えてシーズンを過ごします。

具体的には、準備運動はとても大事だということをみんなに伝えたいと思います。体操をすることによって、体をほぐすだけでなく、精神的にも早く滑りたい衝動を押さえ、冷静になることができます。これ、大事です。

ということで、自分とエレの目標達成のためにも、ケガをしてシーズンを無駄にすることがないように、シーズンを過ごしたいと思います。

平山 宏次郎

岩岳は入賞できて嬉しかったが、個人として点数に貢献出来なかったのが悔しかった。春の滑り込みはいい感覚を得られたので、今シーズンに繋げていきたい！

本田 裕貴

医療部では保険と医療バックの管理を行いました。保険に関しては、全員加入しましたが、説明不足だったので来年以降に生かしたいと思います。医療バックは最低限のものはありませんでしたが、もう少し充実させるべきでした。

不注意によるけが人も多くでてしまったので、より安全なスキーを心がけていきたいです。

スキーという競技は実に珍妙である。斜面を上っては降り、上っては降り、の繰り返しである。少し冷静になれば、なにがそんなに楽しいのか分からない。なぜ自分がこんなにも真剣にスキーに取り組んでいるのか分からなくなる。にもかかわらず、自分は未だスキーを続けている。

去年の成績は最低だった。追いコンのとき、ポイントが稼げず、堤さんに怒られた。

成績が悪い理由は沢山ある。技術は当然であるが、他にはやっぱりメンタル面だと思う。緊張しすぎてダメってことが多い気がする。1級の検定とかもそうだった。1人だけでスタート地点でスタンパって、スタートを待つ瞬間というのは筆舌に尽くしがたい。

この緊張というものを、どうにか少なくしたい…。そんな思いでどうすればよいのかを考えた結果、『場慣れ』をすることがよいのではないかと思った。

車の運転もはじめは緊張したけど、今はあまりしない。(勿論、ある程度の緊張感を持っている。) まずは慣れないといけないような気がする。

こういう訳で、今年は場慣れして緊張しすぎないようにしなければいけない。札幌予選やフィッシャーカップなどにも積極的に出場する必要がある！今年は、たくさんの大会に出る！！…変な目標。

努力は人を裏切らない！

…という言葉は別に自分の言葉ではない。これは前にたまたま読み返していた小学校の卒業文集で見つけた言葉だ。ちなみにその文章を書いた人とは知り合いではない(笑)。

だけど、誰かわからない人が書いたこの言葉がなぜだか今もずっと自分の中にある。確かに努力しても必ず結果が出るとは限らない。しかし、結果を出す人は必ず努力をしている。そして、自分が望んだ結果が出せなくても、何かしら得るものはあるはずである。この社会で生きている以上、他のことには裏切られることがあったとしても、努力だけは自分を裏切らない。

…とまあいつもゲスなことばかり考えているわけではなく、こうやってたまには偉いことの一つも考えているわけです。そんなまじめな信念を持って今シーズンは頑張っていきたいお

小林 すみよ

去年の練習 凄く充実してた！

去年の岩岳 楽しかった！

去年の反省 骨折

エレに入って良かったです(´`)

今シーズンは色んなことに遅れずに頑張っていきたいと思います。

最大の目標は、某三年目達に『化粧しろ』だの『太った』だの『今の顔ぶさいくやな～』だの言われないことです(´`)

以上！

紺野 裕太郎

おちこむこともあるけれど、私はこのサークルが好きです。

田中 美穂

先シーズンは、目標だった1級をギリギリではありましたが取れてよかったです。

2年目になると、去年よりもスキーに行ける回数は少なくなってしまいました。そんな中、1回1回の滑りでいかに質の高い練習ができるか、変わっていきけるか、いろいろ試せるか、その辺が課題かなーと思います。

今年は女子の人数も少なく、団体は1チームしか出せませんが、表彰台狙ってがんばっていきたいです！

あと、今度はシュプール早く出しますっ

独り言:

えっーと....、何書こう.....

てか、シュプールってなんだっけ...

あ、たしかターン弧のことだった気がする。スキー用語ってドイツ語とか英語が混ざってわかりにくいなー。。

ターン弧をうまく描くためにはトップ&テールコントロールが大事よね。そのためには正しいポジションに乗れないといけないし、適切かつスムーズに荷重、回旋、角付けをしないとけないな。

やっぱ今年はその基本の3K+ で迫力のある滑りをしてえ。魅せる滑りをしたいなー。大回りは宮下征樹を参考にしよう。小回りはヤマタクで。

結果としてスキーを楽しみつつうまくなれたら最高だな。スーシーもとれたら最高。

エレガントスキー部としては、岩岳優勝したい！！

衡田 直人；今年の抱負

今年は2年目以上の人数が多く、全員が岩岳の個人戦に出場できるわけではない。その競争を勝ち抜き個人戦に出るのが一番の目標である。

そのために今年はずっと同じシルエットに見えるような滑りではなく屈伸運動を使った動きのある滑りができるようになりたい。あと、手の構えもどうにかしたい。

シーズンが楽しみだ。

細目 智彦

-
- ・スキーを楽しむ
 - ・エレ以外の人とも話す
 - ・もう少しストレスを感じる生活を送る

を目標に今シーズンを過ごしたいと思う。

牧野 文康

やっぱり、上手い人はうまいのだなぁと、今シーズン改めて実感した。
なぜ上手いのか...、その理由が分かれば僕も上手くなれる気がする。

李 美侑

昨年の目標は1年のうちに1級とって岩岳でポイントとることだったが、半分しか達成できなかった。しかも岩岳でポイントとることは女子の場合、北海道の恵まれた環境でスキーしてれば当たり前に行えることのように思え、1級は受けてすらいないし、昨シーズン立てた目標はほとんど意味がなかった。

今シーズンは立てた目標を目標として意識し、達成する努力をしたい。今シーズンの目標は岩岳個人戦でスーパーシードをとること。少しきついようにも思うが、昨年同年目の女子がとっていることが、目標達成の可能性が0ではないと思わせてくれる。今シーズンは団体戦に出られず、岩岳大会自体ももしかしたら出られないかもしれないが、この目標を意識して上達していきたい。

スキーはうまくなればなるほど楽しくなるとよく聞かすが、本当にそうかもしれない。入部当初は趣味程度にスキーが滑ればと思っていたが、今は昨年よりもスキーが好きになっているし、もっとうまくなりたいと思う気持ちも強い。永井さんは上達しない時つまらないよねと言ってたが、上達しなくても楽しいものは楽しいけど、やっぱりうまく滑れた時は最高だから。